つながり新聞

第２号
令和６年１０月発行
発行：山梨市役所 高齢者・介護支援課 支援つなげる担当
R6重層的支援体制整備事業

つながり作りを目指すチーム共生の活動

笑顔飛び交う「秋祭り」を開催

令和６年１０月３日(木)介護や障害福祉の事業所、医療機関などに勤める人たちの有志による集まり、「チーム共生」が主催する秋祭りが、街の駅やまなしで開催されました。

秋祭りの開催は、昨年に続き２回目。平成28年から活動する「チーム共生」はどんなことを目指して活動しているチームなのかを報告します。

共生社会の実現を目指して活動

高齢であっても、障がいがあっても、いつもサービスを提供される側ではなく、自分たちもみんなに提供するものがある！と互いの魅力を知り合う機会をつくる。お祭りはきっかけ。

秋祭りは、チームユニフォームを着た19名のスタッフを中心に運営されましたが、参加者もみな役割を持って参画する催しとして開催されました。

秋祭り会場を一部紹介

秋祭りではステージ発表の他、デイサービス事業所や地域での居場所づくりに取り組む「おひさま」や「マネキン堂」の出店、地元の名店「歩成」やキッチンカーの出店などがあり、会場の隅々まで賑わっていました。

デイサービス事業所の出店

巾着袋やスマホケース、キーホルダー、へちまタワシなど、色鮮やかでオリジナリティーの高い製品が並んでいました。

作り手にとっては、買ってもらって他の誰かの役に立つこと、買い手にとっては、買う楽しみなど、沢山の笑顔につながっていました。

おひさまの衣料品販売

リサイクル衣類がまた誰かの暮らしの場で活躍する。

環境にやさしいSDGsの活動でもあり、つながりづくりに資する活動でもあります。

キッチンカー

楽しい祭りを盛り上げるため、マネキン堂、歩成、キッチンカー等がおいしい料理を提供してくれました。

おいしく食べて元気をチャージ。食べながら話すとより一層会話が盛り上がります。

オンライン診療車「メディくるやまなし」の利用体験コーナー。

市立牧丘病院古屋聡医師も会場に駆けつけました。

チャレンジドショップ同時開催

障がいを持つ方々が作った製品を期間限定で展示・販売するお店「チャレンジド・ショップ」が、同日開催されました。

手作りの文房具や髪飾り、織物、クッキーやドライフルーツ、梅干しなど、沢山の製品が並んでおり、人気を集めていました。

みなさんの参画に感謝！

ここで紹介した他にも、明治安田生命による血管年齢測定、Rainbowのマッサージコーナーなど、地域に笑顔とつながりを届けたい思いを持った方々の集う場でした。

チーム共生代表の広瀬さんが語っていた、「山梨市が元気になってほしい」という思いを実感しました。

祭りはつながるきっかけの場

高齢者、障がいのある方など、いつもはサービスを受ける側にある方が、「私たちもみなさんに提供するものがあるよ。お互いがお互いにできることがあるよ」ということを実現するため、秋祭りを開催。

市役所はどうしても敷居が高い。身近でスタッフとして関わり顔見知りになることで、困ったときに困ったと言えるよう知り合いになる。お祭りはきっかけづくりの場です。

チーム共生が目指す

困ったときに声をかけ合えるつながりをつくる

チーム共生代表

山梨リハビリテーション病院・リハケアセンターきらり
広瀬和子さん

みんなで知り合いをつくる。去年も会ったね。あの人今どうしてる?と声をかけあえる関係をつくりたい。まちで会っても「あ~あのときはどうも」と言い合える関係を地域の中でつくっていくことで、有事のときにも「誰に聞けばいい?」とか、「この人知ってるから一緒に行こう!」等、大事なつながりのきっかけになる。

老いも若きも、障がいがあろうとなかろうと、みんながみんなつながって、お互いが何らかの形で助け合うところを目指す。その結果、山梨市ってやっぱりいいよね!と住んでいる人みんなが思うところが目標です。

まちで会ったときに声をかけたいから顔を見せて

地域活動支援センター「オアシスやまなし結」のメンバーが秋祭りに輪投げコーナーを出店。看板・景品作りなどの事前準備をして、当日の運営も担当しました。手作りのティッシュケースカバーなどの景品が大好評でした。

参加者から、「今度まち中で会ったときに挨拶したいからマスクをとって顔を見せて」などのリクエストもあり、知り合う機会となりました。

ダンスで会場を盛り上げる!

ダンスで会場を盛り上げたのは障害福祉事業所「ワーキングベースプロペラ」のメンバー。リズムに乗ったダンスで会場の参加者に笑顔を届けてくれました。

他にも、WakuWakuの家の子どもたちによるステージ発表、フラダンスやハーモニカ、歌の披露など、たくさんのメンバーが会場を盛り上げてくれました。

チーム共生が目指すのは、「住みよいまち」「訪れたくなるまち」

山梨市

チーム共生の始まりは、市が主催した「在宅医療と介護を語る会」で集まったグループ。高齢になっても、病気になっても、住み慣れた場所で過ごせる山梨市を目指して活動しています。

メンバーは、山梨市に在住、または山梨市内にある事業所に勤めている人。

できる人ができることを出し合って、住み心地のよい山梨市にしようと動き出している勇者たちです。

笑顔で挨拶を交わすだけでも何かのきっかけになるかもしれない、私たちにできることは沢山ある!と感じさせてくれるチームでした。